

病虫害防除所情報

イネいもち病が一部地域で多発！！
今後の発生の拡大に注意して下さい

7月14日～16日に実施した巡回調査において、一部地域でいもち病の多発を確認しました。今後の発生動向に注意し、的確な防除対策を実施して下さい。

1. 現在の発生状況：西多摩地区および南多摩地区の水田で本病の発生が確認されており、発生の激しい水田では、すでにズリコミ症状が認められる。
いずれの水田においても、葉に形成された病斑は急性型病斑であり、丸みを帯びた紡錘形を呈し、病斑上には病原菌の胞子が豊富に形成されていた。
なお、他地区における本病の発生は現在のところ確認されていない。
2. 近県の発生状況：関東近県の発生予察情報によると、茨城県で本病に対する注意報が発令（7月2日）されたほか、千葉県でやや多、埼玉県で平年並と予想されている。
3. 今後の発生予測：7月16日発表の気象予報によれば、向こう1カ月の平均気温、降水量、日照時間はいずれも平年並と予想され、今後、本病の発生は一時的に停滞すると判断される。
しかし、水田内の菌密度が高い状態で推移した場合には、出穂期以降、穂いもちの多発が予想される。

以上から、今後、本病の発生および拡大には注意する必要があり、現在本病の発生が確認されている水田、または今後多発が懸念される場合には、防除基準に従って早急に防除を実施して下さい。

4. 本病に対する主な登録薬剤

薬 剤 名	使用基準（日数/回数）	施用量または使用倍
カスミン液剤	14/5	1000倍
キタジンP乳剤	21/3	800～1200倍
ヒノザン乳剤30	21/4	1000倍
キタジンP粉剤DL30	21/3	3～4kg（10a）
ヒノザン粉剤25DL	21/4	3～4kg（10a）
オリゼメート粒剤	出穂3～4週間前	3～4kg（10a）
キタジンP粒剤	出穂7～20日前	3～5kg（10a）
フジワン粒剤	出穂10～30日前	3～5kg（10a）

* 粒剤および粉剤施用数日間には湛水状態を保ち、落水・かけ流しはしない。